

みんなとともに笑顔いっぱい - 「学びあい」「認めあい」「高めあい」 -



# みんなとともに



10月6日(水)に「市陸上競技大会」が行われ、本校は「Aブロック総合3位」の結果を得ました。大会を終えた次の日、6年教室の黒板には、学校で応援していた同級生からの「あたたかいメッセージ」がありました。6年生は最後まで励ましあい、練習を元気でしました。その姿は、大変貴重なものでした。この成果を自信に変えて、半年後の卒業に向け、さらに高みへとのぼってほしいと考えています。



## 「プチ自慢」から「大自慢」へ

- 「文(学力向上) 武(心身の健康づくり) 両道」を目指して -

保護者の皆様には、過日「全国学力・学習状況調査」の結果をお伝えしました。また、今回は「市陸上競技大会」の結果をお伝えしました。6年生が大変活躍していますので、「大自慢」をしてみることにします。

### 【6年生の活躍】

◇「文」(学力向上) - 「全国学力・学習状況調査」の結果から-

○「国語」「算数」とも、「市平均」「県平均」「全国平均」より「本校平均」が大きく上回っています。(4月時点での結果です。これまでの指導の「積み重ね」の成果ととらえています。)

※ なお、本校では3学期に実施する「NRT(標準学力調査)」で学力向上の成果を検証しています。昨年度は個々の「持っている力」と同程度、またそれ以上の学力を身に付けている児童の割合は「95%」となっています。

◇「武」(心身の健康づくり) - 「市陸上競技大会」の結果から-

○「総合成績」 「Aブロック 第3位」 58点  
(「第1位 飯坂小 62点」「第2位 庭家小 59点」と、ハイレベルな競い合いです。)

「リレー」 「男子 4×100m」 第5位 (長島洋土 永澤英介 鈴木雄仁 小松晴貴)  
「女子 4×100m」 第6位 (森口珠羽 佐藤由依 渡邊小都 嶋原莉寿)

〈個人成績〉 8位まで入賞

「走り幅跳び」 第1位 半田 恋彩 「1000m」 第2位 渡邊 一稀 「80mH」 第2位 嶋原 莉寿  
「走り幅跳び」 第2位 永澤 英介 「80mH」 第3位 佐藤 由依 「80mH」 第3位 小松 晴貴  
「800m」 第5位 高木 美里 「80mH」 第6位 長島 洋土 「ボール投げ」 第6位 佐藤 琉惺

このことに関連して・・・

### 【校長のつぶやき】 その91 「本校で出会った必然」

公立学校の特徴は「学区がある」というところである。例外はあるが、「住居のある学区の学校へ通う」ということが基本になる。申し訳ないのだが、子どもや親は「通わせる学校を選ぶ」ことはできない。

そして、「たまたま」「同じ学区に住んでいる」という理由で集まった子どもたちと、「たまたま」「人事異動で配置された」教職員が、同じ学び舎で、同じ時を過ごしていく。「たまたま」ではあるが、そこには出会うべくして出会った「必然」がある。

そのような中で、本校の子どもたちが「自らの高まり」を感じながら活躍してくれていることは、うれしいことである。そして、その陰には、本校教職員の「子どもたちのために」という「熱い思い」と「献身的な指導」がある。「素直で前向きに学ぶ子どもたち」と「力のある教職員」のいる学校に、「たまたま」配置されている校長の私は、とても「幸せ者」である。

### 【校長のつぶやき】 その92 「このままでよい」

私は不思議であった。他校と比べても、運動能力の高い子が多いわけではないのに、市陸上競技大会で好成績を収めていることを。今回も総合成績で「58点」という得点を取ったが、これは優勝してもおかしくないほどの高得点である。本校の「強み」は、子どもたちの「モチベーションの高さ」と指導による「技の習得」が「うまくいっている」ことにある。「80mH」と「走り幅跳び」での活躍にその効果が顕著である。

ただ、このコロナ禍で、昨年度から6年生のみが出場する大会となった。また、ステップアップに活用してきた陸上大会にも中止されるものが出た。条件はみな同じではあるが、その影響もあることは否めない。

しかし、本校は「このままでよい」と考えている。「走ることが大好き」「跳ぶことが大好き」な子どもたち、それが一番大切なことである。「陸上清明」の伝統は、今年も子どもたちの手によって引き継がれた。